



ベトナム ホーチミン

活気あふれるベトナムに オフショア拠点



オーテックベトナム 会長
林 道雄

ベトナムブームの真つ只中

ベトナムをはじめ訪れた人がまず驚くのはバイクの多さと街にあふれる活気である。活気があるのは他のASEAN諸国と同様であろうが、バイクの多さは周辺国と比べても際立つ。魚群を思わせるようなバイクの群れが、一見無秩序に見えながらも彼らなりの秩序の中で動いている。中には4人乗りで乳幼児を2人乗せて走っているバイクもあり、見ている方が冷や冷やする。

ベトナムは近年第三次と言われるベトナムブームの最中であり、使い古された言葉ではあるがチャイナブラスワンの重要拠点として、日本のIT業界や製造業などからの注目を集めている。公式統計はないが2012年だけでも100社以上のIT関連企業が日本からベトナムに進出したと言われている。

私たちは早くから中国四川省成都でオフショア開発を行ってきたが、近年の中国の人件費高騰を受け、中国以外に開発拠点を多角化しておく必要を痛感した。ASEAN諸国を視察した結果、ベトナムにオフショア開発を中心とするインテック子会社、オーテックベトナムを2012年7月に設立した。

オフショア拠点としてのベトナム

「消去法でいくとオフショア拠点はベトナム」とよく言われる。ベトナムの特徴はと聞かれると、なかなか特徴がないのも事実だが相対的にパラメータがとれていることも事実。ベトナムは相対的に安い人件費、高い教育水準、教育熱の高さ、インターネット、電気インフラの安定性、治安の良さなどから周辺諸国と比べると現段階ではオフショア開発拠点として一歩リードしていると思われる。

また昨年9,000万人を突破した人口や、27歳とまだ若い国民の平均年齢を考えると将来の内需を期待した活動も視野に入ってくる。

しかし問題があるのも事実だ。まだまだ日本の水準と比べると安い人件費は進出するIT企業が

るにつれじわじわと上昇を始めている。大学卒でNetやJavaなどを得意とするエンジニアの初任給は月3500米ドル程度、マネージャークラスだと1,000〜2,000米ドルである。(数年前、ベトナムにはじめて訪れた際ヒアリングした初任給は1500〜2000米ドルだったと記憶している)

上流工程を担う人材の育成へ

また、ベトナム全体としてはいまだブリッジSEや上流工程をこなすことのできるエンジニアが絶対的に不足している。ベトナムのエンジニアは大学で4年間ITに特化して勉強し、ECサイトを実際に運営するなど実践的な授業を受けていることから、卒業の時点でのIT知識は日本を上回るといわれている。しかし就職先が少なく、本格的なプロジェクトが少なく、下流工程やテスト工程のプロジェクトしか経験していないこと、短期間に転職を繰り返す商慣行などから、プロジェクトマネジメントができる人材が育ちにくい。

オーテックベトナムとしても、より上流工程を担うことのできる人材やブリッジSEを数多く育てていきたいと考えている。